

# VIVID LETTER

エコマップをつくってみよう	1
研修報告	2
事業所報告	3
ひとこと通信	4
今回のフレスタいちおし	4



“VIVID”は高次脳機能障がい者の社会参加を支援する特定非営利活動法人です。

特定非営利活動法人 VIVID(ヴィヴィイ)  
〒161-0033  
新宿区下落合 4-20-16 ヲレ目白 103  
TEL : 03-5849-4831 FAX : 03-6908-3364  
Eメール vivid@vivid.or.jp  
HP <http://www.vivid.or.jp>  
発行責任者 北村とし子

## どれだけ、つながりをつくれるか エコマップをつくってみよう ～親亡き後の生活を考える～

親亡きあと、障がいのある子どもに、どれぐらいのお金を準備しておけばよいか、という話をよく耳にします。私も障がい者を子にもつ親です。お金もとても大切ですが、今回は別の視点で考えてみました。

本来、自分のことは、自分で決めていくことが一番です。しかし、記憶や注意・遂行機能などに障がいがあることで、言われたことを忘れていたり、書類を準備することがうまくできなかつたりします。また、発症が子どもの時であれば、そもそも社会経験が乏しく、いわゆる“社会常識”が身につけていないことから、求められていることがわからないといったことも出てきます。

サポートが必要なことは、具体的には、お金の管理、障害者手帳などの更新、体調を崩した時の通院、物を失くした時の対応、季節に合った洋服の選択など、社会制度にかかわることから、障がいがないければ何気なく選択・実行している日常生活のことまで多岐にわたります。独り暮らしの場合は住宅の故障やトラブルなどにも対応しなければなりません。

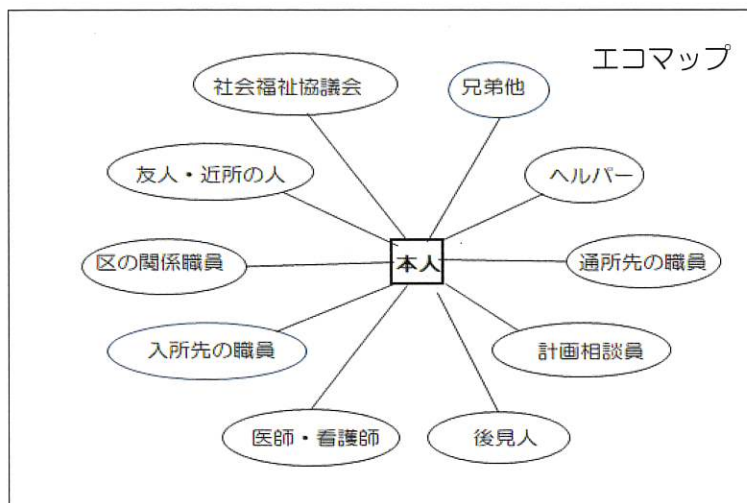
それに加え、大きな災害が起きたらどうなる

特定非営利活動法人 VIVID  
理事 太田三枝子

か。障がいのあるなしにかかわらず、誰もがパニック状態になりかねないとき、障がいがある人はうまく対応できるでしょうか。

家族がいる場合は、家族が無意識のうちに日常的にサポートを行っていて、事なきをえているかと思えます。サポートを受けている当事者もそのことに慣れていて、サポートがなくなった時(家族がいなくなった時)を想像し得ないかもしれません。

家族がいない場合は、日ごろからサポートをしてくれる機関や人とつながっていることが多





く、案外に、家族がいる場合のほうが、家族がいなくなった後の準備、つまり、自身で「助けて」「HELP ME」が言える環境を準備していくことが必要だと思います。

そこで、エコマップ(表紙頁の図)です。エコマップとは、ある人物について、本人と家族の関係性、さらに、それらを取り巻く人々との関係性を示した図で、生態地図とも呼ばれるものです。マップが豊かであれば、つながり・サポートが豊かであるといえます。

通常は、支援者が当該個人を中心に描いていきますが、私からの提案は、家族や当事者自らがエコマップ描いてみませんかというものです。

現在のエコマップを描きながら、必要な支援のつながりを書き足していく。このことで意識的につながりを作っていけるのではないかと思います。

これまで無自覚に家族からサポートを受けていて、助けが必要なのかさえも判っていないかもしれない当事者に、つながりを持つことを認識してもらうことにも役立つと期待しています。

東京大学の熊谷晋一郎先生は「自立とは依存先を増やすこと」だとおっしゃっています。頼る先なければ自立なし、頼れる場所を、今からいっばいつくっていきましょう。

## 研修実施報告

### 「意思決定支援 ～『愚行権』も含めて考えよう～」

1月、東京都社会福祉協議会の講師派遣事業を利用し、上記テーマで全職員対象の研修を行いました。

「意思決定支援」という言葉は、私たちにとってなじみ深いものですが、「愚行権」という言葉を初めて聞く職員もいたかもしれません。

「愚行権」とは、周りの人が「望ましくない」「無駄ではないか」と感じるような選択であっても、本人がじっくり考えた上で決めたことならば、尊重しましょう、という考え方です。

例えば、高次脳機能障がいのある方で、同じ色の洋服を何着も購入され、ほとんど着ていない方がいたとします。支援者としては、「また同じような服を買ってどうするの?」「もったいない」と、つい口を出したくなるかもしれませんが、しかし、本人が「これがいい」と考えて選んだ行為であれば、私たちから見て、たとえ「無駄だ」「非効率だ」と思える選択でも、尊重するのが「愚行権」の考え方です。

もちろん、「他の方の権利を侵害しない」「本人に、見過ごせなほどの重大なマイナスが生じない」範囲で尊重されるものとされています。

ただ、この線引きはとても難しい問題で、支援者によって判断が分かれることもありそうです。また、「愚行権」を「自己責任」という言葉で片づけてしまわないように注意することも大切だと感じました。

今回の研修では、私たち自身の「愚行」を考えるワークショップも行いました。「夜中に甘いものを食べてしまう」「やらなければいけないことがあるのに、動画サイトを何時間も見てしまう」……。参加者からは、そんな「あるある」体験や、「夢中になっている推し活も、興味のない人から見たら無駄に見えるかも」といった意見も出ました。そして、人はそれぞれ、自分なりの幸福感を得るために、多かれ少なかれ「愚行」を行っているものだ、という共通認識を持つことができました。

そもそも「意思決定支援」は、「障がいのある方も、ない方も、すべての人が自分のことを決める力を持っている」という考えを出発点としています。そして、その思いを支えるために、意思を表出することが難しい方へも、様々な方法で支援を尽くしていく、というのが私たちの

## 就労継続支援 B 型事業所 フレッシュスタート目白

フレスタの活動風景をお届けします。(管理者:遠藤伸)

### 外部販売イベント

秋から冬にかけて、外部販売イベントがありました。フレスタは新宿区立障害者福祉センターで開催された「センター祭」、新宿区主催の「共同バザール」に参加しました。

#### センター祭

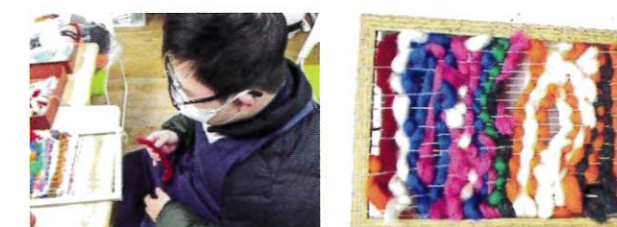


#### 共同バザール



### 創作レクリエーション

月に1回の創作レクリエーション。1月は毛糸を使った飾り作り。参加したみなさんが思い思いの色を選んで完成させました。



仕事です。当然、「愚行」と思われる選択にも、本人の意思は尊重されるべきです。

しかし、日々の支援の中で、つい支援者側の価値観で判断してしまったり、「良かれと思って」本人のことを先回りしてリスクを取り除こうとしてしまう場面があり得ます。そんな時こそ、私たち支援者全員が、この「愚行権」という考え方を共通認識として持っていることが、とても重要だと感じました。

今回の研修を機に、利用者さんの「好き」を大切にする支援を、改めて心がけていきたいと思えます。

(フレスタ管理者:遠藤伸)

## 「TOKYO 働きやすい福祉の職場宣言事業所」になりました。

フレスタは1月に、標記の事業所になりました。

これは、東京都が実施している事業で、働きやすい職場づくりに取り組むことを「宣言」する福祉事業所の情報を公表することをもって、事業所と求職者の双方を支援しようというものです。

申請に必要な書類や環境を整えることで、当職場の課題整理ができました。スタッフが働きやすいと思える職場は、利用者が心地よいと思える居場所づくりにもつながります。

今後も、より働きやすい職場をめざしていきます。





## ひとこと通信

フレッシュスタート目白（フレスタ）の利用者さんのコーナーです。

今回は大塚亮太郎さんです。

フレスタでは、高次脳機能障がい以外の障がいがある方も通われており、大塚さんもその一人です。

◆フレッシュスタート目白の作業で楽しい作業はありますか？

ビーズ作業です。コーヒーカップとカップケーキ、雪だるま（写真左）を作りました。ビーズをつなげて完成させるのが好きです。

ボランティアの方と一緒にする工作活動も好きです。最近、作ったルームデオドラントは家に飾りました。



布をウエス用にカットする大塚さん

◆これから頑張っていきたいことはありますか？

リユースショップのショップ担当を頑張りたい。レジが新しくなって操作に慣れてきたから、これからは頑張りたいと思います。

◆余暇活動は？

スマホゲーム「ポケポケ」をやっています。好きなキャラクターはシャンドラ、ツンバアーが好きです。

習い事ではピアノ、レスリング。両方とも小学校から続けています。ピアノの得意な曲は「ひげじいさん」、ジブリの「となりのトトロ」を弾いています。

好きなテレビ番組は音楽番組。「SixTONES」の「こっから」という曲が好きで、特にラップの部分が好きです。カラオケにも行きます。「ごくせん（TVドラマ）」の「虹」が好きです。

## ご寄付の報告

この紙面を使って、ご寄付の報告を行っています。

### ●VIVID へのご寄付

VIVID LETTER 前号の報告後・2024年8月1日～2025年1月31日までにいただいた寄付金の合計は、延べ16人、209,001円でした。

### ●フレッシュスタート目白へのご寄付

毎日、たくさんの品物をご寄付いただいています。8月78件、9月89件、10月156件、11月143件、12月164件、1月118件でした。

## お知らせ

### ○指定特定相談支援事業所の廃止

昨年12月に閉所しました。丸10年の活動を支えてくださったみなさまに厚く感謝申し上げます。高次脳機能障がいの相談などには、法人として取り組んでまいります。

### ○メールアドレスの変更

hbd-vivid@vivid.or.jp を vivid@vivid.or.jp に変更しました。

## ご寄付のお願い

ご協力はいつでも受け付け中！  
よろしく申し上げます。

### 【銀行口座への振込の場合】

三井住友銀行 国立支店 普通 7854639  
ゆうちょ銀行 記号 10130 番号 91768901

### 他金融からのお振込みの場合

店名 〇一八（ゼロイチハチ）店番 018  
普通 9176890

### 【郵便振替口座への振込の場合】

郵便振替口座 00130-7-780312

名義・加入者名はいずれも特定非営利活動法人 VIVID

## 今回のフレスタいちおし プエルト

自主製品コーナーの拡張を前号でお知らせしましたが、その一角に、別のB型事業所「プエルト」さんの自主製品コーナーもできました。プエルトの意味は「港」。出会いを楽しみ、喜べる場にしたいという思いがこめられているとのこと。

商品は、コースター、卓上箸、髪飾りなど、どれも素敵な商品です。着物からアップサイクルされたブックカバーは、柄がとってもきれい！おすすめです。

地域との連携がこのような形で実現でき、フレスタがプエルトさんの名前のように出会いの場になると嬉しいです。

### ★プエルト HP



プエルトさんのロゴ



陳列されたプエルトさんの商品

## 編集後記

「親亡き後」とはいいませんが、頼るあてのない単身高齢者も状況は同じ。今後、ますます増える単身高齢者。どのように老後を暮らすのか？ 暮らせるのか？ 「助けて」といえる先を増やすことは誰もの課題であり、地域に社会資源を増やすことは社会の課題といえますね。（金尾）